

「発展し続ける港北区」を守る消防団
～港北消防団活動のあゆみ～

横浜市港北消防団 団長 飯田孝彦



1 横浜市港北区の紹介

私たちの管轄する港北区は横浜市の北東部に位置し、約 36 万人と横浜市のみならず全国の政令指定都市の中で最も人口が多い行政区です。

新横浜駅を中心とした新横浜エリアに横浜国際総合競技場、横浜アリーナといった大規模集客施設、東急東横線沿線に住宅地、商業地があり、JR 横浜線、横浜市営地下鉄の沿線には緑を残しつつもニュータウンや大規模なマンションなどが立ち並び、今もなお開発が進んでいます。

本年度末には相鉄・東急直通線の開通と新駅の設置が予定されており、今後ますますの発展が期待されています。

2 港北消防団の概要

港北消防団の歴史は古く、昭和 23 年 3 月 7 日消防組織法の施行に伴い自治体消防が発足し、港北消防団は、1 本部、5 個分団、24 個班、団員 418 名の組織として設立されました。

その後、2 度の横浜市域行政区の再編成が行われ、平成 6 年 11 月に現在の港北消防団となりました。

港北消防団では、平成 10 年度から女性消防団員の採用が始まり、現在では多くの女性消防団員が活動しています。

現在、団員定数 700 名として団本部、8 個分団、46 個班、区内全域に 48 か所の器具置場、39 台の積載車、52 台の可搬式小型動力ポンプ、その他人命救助用資機材等を配置し、港北区民の安全・安心を守るため、日夜区内の防火・防災活動に従事しています。

3 港北消防団の活動

最近では、ラグビーワールドカップ 2019、東京 2020 オリンピック・パラリンピックにおける警戒活動を行いました。

ラグビーワールドカップ 2019 では決勝戦を含む 7 試合、東京 2020 オリンピックのサッカー競技では男女共に決勝戦を含む 11 試合が、横浜国際総合競技場にて行われ、港北消防署内に消防団本部を開設して情報収集・連絡体制を確保するとともに、競技場周辺の巡回警戒を実施しました。

東京 2020 オリンピックのサッカー競技では、新型コロナウイルス感染症の影響により無観客となったほか、女子の決勝が当初予定されていた国立競技場から急遽、横浜国際総合競技場となるなどの変更がありましたが、港北消防署と連携して迅速・適切に対応することができました。

訓練は充実したものになるよう実災害を想定し行っており、消防隊と連携した遠距離送水訓練や消火訓練、震災や風水害等大規模災害時の情報受伝達訓練等を実施しています。

毎年夏季に分団ごとに行われる夏季訓練会は、それぞれの分団の状況に即した訓練を実施しています。



港北消防団の特色として、横浜市内で唯一、女性のみで構成される分団（第八分団）を組織しています。

第八分団は平成 10 年に結成されてから 20 年が経過し、現在では 90 名の団員が所属しています。

主な活動は火災予防広報や各種救命講習などの市民指導、また、ポンプ操法、資機材取扱等の各種災害に対応した訓練を実施しています。

これらの訓練により、災害対応能力の向上を図るとともに、地域と密接に寄り添い、地域全体の防災力を高める担い手として活動しています。

分団長を筆頭として一つの目的に向か



って一致団結できるチームワークを大切に第八分団はこれからも邁進します。

4 おわりに

東日本大震災の教訓をもとに改めて消防団の重要性が認識され、今後発生が予想される首都圏直下型地震をはじめとする大規模地震や激甚化傾向にある自然災害への対応など、地域防災の要である消防団活動への期待が高まる一方で、新規入団者の確保は困難な状況です。消防団の広報・募集活動を積極的に行い消防団の活動を知っていただき、入団促進に繋げることが重要です。

今後も港北消防団は、港北区の安全・安心を守るため消防署をはじめ、関係各機関と協力し、更なる充実と前進を続けて参ります。

